

は じ め に

本研究報告は、1989年度、遠隔高等教育における新型学習センター実験研究の一環として大阪地区において実施された在関西有識者インタビュー調査をまとめたものである。

放送大学の全国化は、わが国の生涯学習と高等教育の将来にとって、欠くことのできない課題であるといえる。放送教育開発センターでは、将来、放送大学が全国化する際、それぞれの地域に適した学習センターの形態を明らかにするため、全国の大学や地方自治体との協力の下に、放送大学の番組ビデオを利用した実験的な学習センターを設置し、実際に受講者を募り、講座を開講することを通して、どのような形態の学習センターが望ましいかを研究してきた。

いうまでもなく、大阪地区をはじめとする関西地域は、首都圏につぐ人口集中地域であり、生涯学習や高等教育に対する人々の関心と要求は非常に高い。しかし、そこには首都圏とは異なる文化や歴史風土が存在し、生涯学習や高等教育に対する要求や考え方も、また、独自な特徴をもっていると思われる。

全国レベルの遠隔高等教育の実施にあたっては、そのような地域の独自性や特性が十分に配慮されなければならないことはいうまでもないところであろう。

そのような関西圏の歴史、社会、文化、経済の独自なあり方を前提にしながら、放送大学というあたらしい可能性を視野に入れていったいどのような遠隔高等教育が関西という土壌に根づくことが可能なのかを明らかにするため、関西地域の経済、教育、メディアなどの各分野で現在活躍中の20人の有識者に対して、放送大学をはじめとする遠隔高等教育にどのような期待をもち、また、いかなる可能性を見だし得るかを自由インタビューの方法をもちいて調査を行なった。

このインタビュー調査を実施するにあたって、放送大学の全国化に関する従来の調査がどちらかというとい供給サイドからの視点に立つ傾向があったことを考慮し、本調査では、あくまで需要サイドに立って、関西における遠隔高等教育のあり方を議論することをめざした。したがって、インタビューを進める際には、現行の制度やシステムのもつ現実的な制約やフィージビリティに対する厳密な検討はあえて行わず、可能なかぎり多様な見解や提案がだされるように努めた。

インタビューを通して得られた意見や見解、提案は多岐にわたると同時に、将来の遠隔高等教育の発展にとってきわめて貴重な示唆を多く含むものであった。

本報告は、そのような貴重で示唆に富む指摘をできるだけ多くの人々に活用いただけるよう刊行された。

本報告は、有識者に対するインタビューの結果を本報告と並行して単独の報告書としてまとめたものであり、実験研究の全体は別の報告書においてあきらかにされるものである。

最後に、長時間にわたるインタビューに応じていただいた有識者の各位に、この場を借りてあらためて謝意を表するものである。

放送教育開発センター研究開発部
研究代表者 山中 速人